

A-16 にか菜漬による光過敏症の血液性状ならびに組織像の変化
郡山女子大家政 ○松浦榮一 平野隆司 山田幸二

目的 一般食品による光過敏症の例は少ないが、演者らはラットにか菜漬や野沢菜漬を給与し、可視光線下で飼育すると死亡、脱毛、皮膚や耳のネクロゼ等の光過敏症を観察した。本研究はこれらの光過敏症のメカニズムを解明するためラットにか菜漬粉末を給与し、光照射した後、血清、血漿の各種生化学的検査ならびに死亡直前のラットの組織学的検索を行って検討した。

方法 20%カゼインを含む飼料に5%のか菜漬粉末を添加し、体重約110g前後のドブリュウ系雄ラットに給与し、1日1時間、照度2万luxの可視光線下で1~2日間飼育した後、断頭採血を行い、血清、血漿を分離し、たん白質分画、遊離アミノ酸、脂質成分、電解質、GOT、GPT、LDH、ALPの活性等を測定した。また、心臓、筋肉、皮膚、耳をHE染色を行い組織学的に検討した。

結果 にか菜漬添加飼料を投与し、光照射するとラットは1時間以内に不穏になり、後頭部、背部に著明な浮腫がみられ、3~6時間程度で全て死亡した。光過敏症ラットでは血清アルブミンの減少、オグロブリンの増加、GOT、LDH活性の増加、ALP活性の低下がみられた。電解質では特に、NaとKの変動がみられた。脂質成分では、血清沈殿部の過酸化脂質の増加が観察された。皮膚及び筋肉は、組織学的にI型の即時型アレルギー性炎の像が観察された。また諸臓器の高度のうっ血所見から光過敏症の死因は、一種のアナフラキシーショックと推察される。